

東大理Ⅲに4人の子どもを合格させた

大分出身・佐藤亮子ママの講演会から教わったこと②

『読み聞かせの本当の効用！』

子どもを授かり、産婦人科に出入りする機会が増えると絵本や児童書の読み聞かせについて、小さい頃からの読み聞かせが子どもの将来に、とっても良いですよと自然と刷り込まれるような児童書出版メーカーのポスターや雑誌記事を良く目にするようになります。

そして、書店の絵本コーナーや児童書コーナーに20数年振り位に訪れる。読み聞かせ体験会なんて企画があったり、幼稚園や小学校でも保護者ボランティアによる絵本の読み聞かせタイムがあったりします。言葉の発達に良いとか、小さい頃から（絵）本に触れることで将来本が好きな子になるとか、本に親しみ読書が好きになると勉強が出来る子になる。さまざまな効用があるように言われています。どれも出版社側の主張であり、いわゆる宣伝になっていることは否めません。

ちなみに、『学力の経済学』中室牧子さんの著書にも書いてあったように、読書と学力の間には相関関係はあるが因果関係は無いとの結果でした。つまり、学力が高い子の傾向として読書量が多い傾向はあるが、読書量が多い子が必ず

しも学力が高いとは限らないということです。

また別の研究では、大学生に対して読書調査を行った結果、月に1～2冊の本を読む学生とそれ以上読む学生との学力差は無く、恒常的に10冊以上読む学生は逆に学力が低い傾向にある。大量の読書をする学生については、学習時間が十分に取れていないようです。ちなみに、1冊も読まない学生はやはり学力が比較的低いようです。つまり、先程の学力の経済学の統計のように、相関関係はあるが因果関係はないことの実例にあたると思います。

では、どのような読書が効果的なのかはひとまず置いておいて、本題の読み聞かせの効用について、佐藤ママから教わったことを書いていきます。佐藤ママが言っていた読み聞かせの一番の効用は、ズバリ美しい日本語に触れること。そして、美しい日本語・正しい日本語を身に付けることだそうです。人は言語で思考し、言語が人を形成する。読み聞かせをするような絵本や児童書には美しく・正しい日本語が多く、幼少期に自分では識字出来ない時に親からの声を通じて吸収することが出来る。日常の親子の会話ではなかなか使うことのない美しく正しい日本語を早くから身に付けることが、読み聞かせの本当の効用なんです。

もちろん、読み聞かせすることで親の言語感覚も磨かれていくと思いますし、親にとっても親力？のような（ここでは主に言語能力）力の向上にも繋がると

思います。逆に親が子どもに言ってはいけない言葉については、別冊『中学受験に役立つ小冊子・小6夏からの通塾で・・・』に少し事例を混ぜて書いてありますので、良ければ参考にしてください。

親が子へ美しく・正しい日本語（言語）の読み聞かせを通じて、その先にある自身での読書に繋げていきたいですね。そのためにも、ただ何となくだったり、あるいは将来の学力の向上に繋がるといった理論なき噂に惑わされず、真の効用を意識して読み聞かせを行ってみてはいかがでしょうか。

最後に、自省も込めて日々の粗野で乱暴な言葉遣いは禁物禁物！！

S L : 1 9 - 3 2 2 0 - 0 0 2 8

ソニー生命保険(株) 大分支社

〒 870-0029 大分市高砂町 2-50

オアシスひろば 21 9 階

TEL 097-532-9200

ライフプランナー 山田新悟